

≪企画書≫

提出者 たかみっちー

【タイトル】93日でカンボジアに学校を建てた僕が伝えたい”貢献”の教え

【概要】

本書は、人生で過去 8 回も投資詐欺にあったユニークな経験をもつ著者（たかみっちー）が、「世界で活躍する日本人メンターX」からの突然の一言をきっかけに、ゼロからカンボジアの子ども達のための学校建設に挑戦した実話です。社会貢献なんて余裕がある人がするものと思っていた著者の思考を 180 度変えた「どんな人でも貢献が自己をより豊かにする理由」を「93 日間で出会った人々と一緒に育んだ絆の物語」を通してお伝えします。新しい挑戦や社会貢献をしたいと思う方々の一助になる本でありたいと願っています。

【想定する読者ターゲット】

- ① 自己啓発、ノンフィクション、旅行記などを好む一般読者
- ② ビジネスパーソン、起業家、個人事業主
- ③ 人生の転機、新しい挑戦を考えている方

【構成案】

はじめに / プロローグ：僕の自己紹介

第1章：突然の「指令」～人生のルールが変わった日～

- ・”衝撃” 1 日目 / 日本人メンターX との出会い：「カンボジアに学校を建ててきて」
- ・”模索” 7 日目 / 学校建設は文字通りゼロからの挑戦：日本での情報収集開始
- ・”果敢” 13 日目 / いざカンボジアへ：貧困、劣悪な子供たちの学習環境をみて

第2章：出会いが僕を変えた～開発途上国で学んだ大切なこと～

- ・”邂逅” 14 日目 / 3 人のキーパーソン登場：学校建設までのロードマップ作り
- ・”協調” 15 日目 / 現地の人々との交流を通して：言葉の壁、異文化、そして温かい心
- ・”約束” 21 日目 / 寄附はお金持ちがすること？：心に芽生えた使命感

第3章：試練が僕を成長させた～壁とそれを乗り越える力～

- ・”困難” 33 日目 / カンボジアビジネスと政府の壁：信頼できる建設業者を探せ
- ・”忍耐” 48 日目 / 資金調達壁：目標金額 1877 万円と現実とのギャップ
- ・”決意” 60 日目 / それでもあきらめない：寄附は与える事にあらず

第4章：絆と貢献が奇跡を起こす～両国間に生まれた友情と連帯感～

- ・”言霊” 75 日目 / 無償の応援：メンターX、そしてビジネススクールの仲間存在
- ・”絆” 88 日目 / 絆は影響力：日本とカンボジアの海境を越えた友情と連帯感
- ・”希望” 90 日目 / 完成への光：貢献するほど自分に与えられる不思議な力学

第5章：“貢献3.0”世界の幕開け：AI時代を生きる日本人としての豊かさ

- ・”達成” 91 日目 / ついに学校完成！：子供たちの笑顔、喜びと感動の瞬間
- ・”驚き” 93 日目 / 何とカンボジア国営放送で全国デビュー：持続的貢献の重要性
- ・”未来” 94 日目 / 貢献活動に終わりはない：「貢献3.0」世界の提唱

おわりに / エピローグ：メンターXとの絆

・本書に登場する「世界で活躍する日本人メンターX」が名前と顔を公表し紙面に登場します。著者との間で激動の93日間を振り返るとともに「AI時代における貢献の新たな可能性（貢献3.0）」について対談する形で構成します。

【サンプル原稿①】

93日でカンボジアに学校を建てた僕が伝えたい”貢献”の教え

第1章：突然の「指令」—人生のルールが変わった日

- ・”衝撃” 1 日目 / 日本人メンターXとの出会い：「カンボジアに学校を建ててきて」

あべのハルカスの展望台からの夜景を見下ろしながら、僕は意識的に気分転換しようとしていた。無数の光が瞬く大阪の夜景。「綺麗ななあ…でも、何か違うんよなあ」。高みにのぼる事は成功者の醍醐味に見えるけど、そう思えない。むしろ無数の光は、自分を絶えず凝視する監視カメラみたいで、「早く成功せな！」とプレッシャーとしてのしかかる。時計はちょうど展望台の営業時間終了 22 時になろうとしている。多忙な日々は相変わらず。僕はこれまで起業家育成の学校代表として、200 名以上を指導し、5000 件以上のコンサルティングをしてきた。ビジネスはまあまあ順調。家族と人並みの生活は送れている。でも、心の奥底には行き場のない「渴き」があった。魂の空白を満たす何かを求め続けるような奇妙な感覚。「何か」が足りない。何か重要なものを見失っているのではないか。そんな焦燥感が、大阪の夜景に溶け込んでいるようだった。

冒頭の自己紹介でも伝えたが、僕は何の因果か過去 8 回も投資詐欺に遭っている。その度に大切な資金を失い、人を信じられなくなった。ビジネスで少々成功しても、心のどこかにトラウマが残っている。もしかしたら、この「渴き」は、失った何かを取り戻そうとする心の叫びなのかもしれない。こんな時こそ、潜在意識の御導きは頼りになる。

一昨年、沖縄のビジネス合宿で、後に僕のメンターとなる人物（世界で活躍する日本人メンターX）と出会った。直感だった。「この人からもっと学びたい」そう思った瞬間、人生の歯車が回り始めた。あれから約半年。僕はメンターXのセミナーで学び、自社のビジネスモデルを改善してきた。そして、運営する起業家コミュニティ発展のため、半年間で390万円もするメンターXとの個別コンサルティング付のビジネススクールを申し込んだ。それは、初回コンサルでのこと。僕は練りに練った自分の新しいビジネスモデルを40ページの資料にまとめあげ、意気揚々とプレゼンをした。しかし、メンターXは一言。

「たかみっちー、ビジネスはもういいから、カンボジアに学校を建てといで」

唐突すぎた。理解するのに数分かかった。

「え…？カンボジア…？学校…？」

頭の中はクエスチョンマークで埋め尽くされた。40 ページの資料は、ただの紙切れになった。コンサルはそれ以上、事業の話をする事なく終わった。なぜカンボジアなのか？なぜ学校なのか？放心状態だった。正直、あの日のことはおぼろげだ。

「僕はカンボジアに学校を建ててるんだな…」

これまでのビジネス経験から、僕はうまくいくマインドセットは心得ているつもりだ。メンターの言葉には「はい！」「YES！」「喜んで！」しかない。しかし今回のいわば「指令」は、これまでの経験則を大きく超えていた。未知の領域への挑戦だった。最初の 1 週間、全く動けなかった。カンボジア、学校、建設…イメージが全く湧かなかった。あまりそちらに気を取られないよう、手元のビジネスに集中するしかなかった。顧客のこと、会社の組織化、チームメンバーのこと。課題は山積みだった。今思えば、93 日で成し遂げたカンボジアの学校建設は、自分一人ではできない壮大なプロジェクトだった。当時の僕は覚悟が足りなかったのかもしれない。でも心の奥底では、何かが確実に変わり始めていた。ビジネスだけを追い求める中で見失った「何か」が、メンターの「指令」によって呼び起こされた気がした。それは、人の役に立ちたいというピュアな気持ち、人生を意味あるものにしたいという願いだったのかもしれない。

小さな火種が、私の中で灯り始めていた。そして、その火がやがてカンボジアの赤土の大地で大炎となり燃え盛る事を、この時の僕はまだ知る由もなかった。

【著者紹介】

たかみっちー

元大手製薬メーカーの営業職として 2 社勤務し、その後は薬剤師として安定した職業から独立。会社員時代から、物販、FX、不動産投資、株式投資などをやってみたものの、なかなかうまくいかない悶々とした 5 年間を過ごす。これまで 8 回の投資詐欺などに遭いながらも薬局経営、脱毛サロン経営、アプリケーション開発、代理店営業、コンサルティングサービスを経験。現在は 4 人の娘を持つパパでもあり、持ち前のバイタリティーを発揮して、家族・やりがい・趣味・ビジネス・お金・貢献など自己実現をバランスよく実現する幸せな起業家として成幸している。大切にしていることは「最後までやり通すこと」。それはクライアントと向き合う姿勢にも現れている。

以上となります。宜しくお願い致します。